

2003 年度日本エイズ学会第 1 回理事会議事録

日 時：平成 15 年 5 月 16 日（金）午後 3 時～4 時 30 分
 場 所：東京大学医学部附属病院管理・研究棟第 1 会議室
 出席者：木村 哲，味澤 篤，池上千寿子，市川誠一，岡
 慎一，岡本 尚，木原正博，五島真理為，新庄文
 明，戸谷良造，橋本修二，馬場昌範，堀 成美，
 安岡 彰，山本直樹，上田重晴（監事），以上 16 名
 委任状提出者：青木 眞，内海 眞，速水正憲，原田信志，
 満屋裕明，吉崎和幸，以上 6 名
 オブザーバー出席者：三間屋純一（2004 年度学術集會会長），
 福田 博（日本学会事務センター），
 山本暖子（理事長秘書），以上 3 名

議 題

（協議事項）

1) 理事長推薦理事について

木村理事長から，分野を考慮して東京都立駒込病院感染症科の堀成美氏が理事に推薦され，承認された。会則では理事長は理事 2 名を推薦できるが，理事長任期 2 年と理事任期 4 年を勘案し，理事長の前任期中に理事 1 名が推薦されていることから，今期は理事 1 名の推薦となった。

2) 監事の指名について

木村理事長から，監事として前監事の（財）阪大微生物病研究会の上田重晴氏が推薦され，同氏を選出した。木村理事長が同氏に監事を委嘱した。

3) 理事の役割分担について

庶務は橋本理事，会計は安岡理事，編集は山本理事，また，ホームページは味澤理事が担当することとなった。編集は日本エイズ学会誌編集委員長の高田昇氏と協議して，ホームページは前担当理事の高田昇氏と協議して進めることが確認された。

4) 第 19 回日本エイズ学会会長候補の選出について

第 19 回日本エイズ学会学術集會会長候補の選出について審議された。これまでの臨床・基礎・社会の分野での開催状況と開催場所が考慮され，候補者案が定められた。候補者については，木村理事長が候補者案を確認の上で，次回の理事会で決定することとなった。（後日，木村理事長により，熊本大学医学部感染防御学の原田信志理事を候補者案とすることが確認された。）

5) 2002 年度決算について

2002 年度決算および「日本エイズ学会 ECC 山口メモリアルエイズ研究奨励賞」2002 年度特別会計・決算について，木村理事長から報告された。決算額は予算額と比べて，収入が会費収入などの増加により上回り，支出が下回った。次年度繰越金は約 300 万円増加した。資産の管理ではペイオフ対策なども考慮されている。上田監事から正確妥当であったという監査報告がなされ，いずれも承認された。

6) 編集委員会運営規則の一部改定について

編集委員会運営規則において，第 9 条を，旧「編集委員の任期は原則として 3 年とし，再任は妨げず 2 期までとする。改選は原則その半数にとどめる。査読委員には任期を設けない。」から，新「編集委員の任期は原則として 4 年とし，再任は一回までとする。改選は原則その半数にとどめる。」と改定された。主な改定理由は編集委員の任期を理事の任期 4 年に合わせるためである。本改定運営規則は 2003 年 5 月 16 日から施行され，また，現編集委員会から適用することとなった。これらがいずれも承認された。

（報告事項）

1) 会員現況（報告者：木村理事長）

会員現況（昨年同期より 31 名増，団体を含む合計会員数：1487 名）の説明がなされた。

2) 日本エイズ学会誌発行状況

（報告者：木村理事長，山本理事）

日本エイズ学会誌 5 巻（2003 年）について，発行状況と予定が報告された。編集は順調であるが，投稿の少なさが改善されておらず，会員への投稿の勧めを学会誌に掲載する。また，特集などの企画を検討中である。

3) 第 17 回日本エイズ学会学術集會

（報告者：木原 2003 年度学術集會会長）

第 17 回日本エイズ学会学術集會の準備状況が報告された。第 7 回アジア太平洋地域エイズ国際会議との合同会期の変更要請があり，合同会期を 11 月 27，28 日とすることが承認された。それに伴う本学会参加者の特典のあり方が検討され，木原会長に一任することとなった。演題数などの面から運営方法について意見交換がなされた。

4) 第 18 回日本エイズ学会学術集會

（報告者：三間屋 2004 年度学術集會会長）

第 18 回日本エイズ学会学術集會の準備状況が報告された。会期は 2004 年 12 月 9 日（木）～11 日（土），会場は静

岡市のグランシップである。会期は会員の便宜などを考慮して世界エイズデー（12月1日）を含んでいない。プログラムの構成などを含めて準備が順調に進んでいる。

5) 2003年度エイズ研究奨励賞候補者の推薦依頼等
(報告者: 木村理事長)

ECC 山口メモリアルエイズ研究奨励賞候補者の募集について、日本エイズ学会誌5巻2号に掲載すること、および、推薦依頼文を理事・評議員に郵送することが報告された。同選考委員会の構成(松下修三委員長と委員5名)が報告された。

6) 2003年度予算(報告者: 木村理事長)

2003年度予算(前回理事会で承認済み)について、確認された。

7) その他

1. 第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議

木村理事長から、第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議の準備状況が報告された。プログラムの準備は順調に進んでいるが、募金や参加者数の問題点が指摘された。

2. 科研費審査委員候補者の推薦

木村理事長から、学術会議より本学会に科研費審査委員候補者2名の推薦依頼があったこと、時間的な関係もあって2名を推薦したことが報告された。今後、研連で候補者の絞り込みが実施され、最終候補者が決定される。

3. 厚生労働省健康局疾病対策課からの依頼

木村理事長から、厚生労働省健康局疾病対策課より依頼があり、日本エイズ学会誌のバックナンバーを送付したこと、学会ホームページ閲覧のためのパスワードを通知したことが報告された。いずれも本学会の活動の一環であることが確認された。

以上

文献紹介

DNA deamination mediates innate immunity to retroviral infection.

Harris RS, Bishop KN, Sheehy AM, Craig HM, Petersen-Mahrt SK, Watt IN, Neuberger MS, Malim MH. Cell 113 (6) : 803-809, 2003.

HIV-1にはいくつかのユニークなアクセサリータンパクがあることが大きな特徴のひとつであるが、その持続的な産生にとってVifタンパクがきわめて重要である。もしこのタンパクがないとウイルスは標的細胞に侵入しても宿主側の抗ウイルス作用により、感染は停止してしまう。英国のMalimらのグループは昨年Nature誌上で、CEM15/APOBEC3GというヒトT細胞に存在するタンパクがVif欠損HIVの強力な抑制因子であることを示した。CEM15/APOBEC3Gタンパク質は本来、アポリポタンパク質B mRNA編集酵素として知られている。今回の論文では、ネズミ白血病ウイルス(MLV)のシステムを用いて、CEM15/APOBEC3Gがウイルス産生の間に粒子中に取り込まれるDNA deaminaseであること、それにより逆転写によりつくられたHIVのマイナス鎖cDNA中のdeoxycytidine (dC)からdeaminationによりdUへの変化を誘導して、おそらくウイルス破壊の引き金になっている可能性を示した。さらにCEM15/APOBEC3GはネズミのレトロウイルスであるMLVの感染に対しても抑制的に作用し、Vifはこれと競合するということから、このタンパク質がHIVだけでなく他のレトロウイルスも含め、広く宿主の防御因子としての役割を担っていることを示唆したのである。

ヒトAPOBEC3Gによる抗レトロウイルス防御が新生された逆転写産物の致死的編集によって行われるということから、その作用機序についていくつかの説明が考えられている。ひとつは変異の誘導によるウイルスの不活化であり、他の一つはdUに変化したことにより遺伝子のこの部位をUracil-DNA glycosylaseが認識して切断してしまうというものである。さらに3番目として著者らはマイナス鎖cDNAにおけるdUへの変化がプラス鎖cDNA合成開始の特異性にも変化をあたえるという可能性も述べている。この論文はさらに特定の部位のDNA deaminationによるウイルスの不活化が宿主の持つ先天免疫のひとつの大きな戦略であり、逆にウイルス側からすれば変異というバイアスの多い手段に訴えても生き残るという対抗策の可能性を示唆したものとして興味深い。本年のCold Spring HarborのRetrovirus Meetingでも大きな評判をよんだ重要な研究であり、実際に欧米の他の数グループから同様の成果も発表されている。

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科ウイルス制御学分野 山本直樹)